



巻頭言／予測できない事態にも対応、
創意工夫を発揮し地域福祉の拠点になろう — 2

成光苑の支援体制づくり進むー「大阪しあわせネットワーク」 — 3

“ぶれない福祉観”を実感ー北欧研修に参加して — 3

人財確保・育成プロジェクト — 4~5

今日から始まる 成光苑で始める！アピール就職フェア
人財確保プロジェクトに現場スタッフも参加
保育部門ー新人マニュアル・研修の強みを訴え
〈座談会〉チューターの存在、頼りになります！

地域貢献・交流 — 6~7

冊子「楽しく食べよう離乳食」をお母さんに 第二愛育園
介護保険相談など「地域の相談窓口」続々実践へ
福祉避難所の役割ー20人・3日分の“備蓄倉庫”せつつ桜苑
警察署員招き“さすまた”使い防犯訓練 サンヒルズ紫豊館

トピックス — 8



法人本部前に「夢の貯金箱」 ドリンク1本に10円寄付、社会貢献事業に

どんな小さなことでも社会の力になりたいー成光苑では「夢の貯金箱」を今回(8月23日)、法人本部前に設置。すでに昨年度から高齢者全施設に設置しています。

「夢の貯金箱」は公益財団法人 日本財団が運営。「社会貢献自動販売機」に同貯金箱を設置し、ドリンク1本あたり10円が寄付されるというプロジェクト。寄付金はすべて社会貢献活動に使われ、現在は「いじめ自殺をSTOP!」「災害現場にもっと市民の力を!」「障害者を一流のショコラティエに!」の3つのミッションにもとづく活動が展開されています。成光苑ではこのプロジェクトに参画、「夢の貯金箱」と書かれた自動販売機の前を通られた時は、ぜひご協力のほどお願いします!

今年は「のびのび そだったで賞」 「2016ひまわりのせいくらべ」に参加



認定こども園 正雀愛育園は「2016ひまわりのせいくらべ」に参加、表彰式(9月11日)で「のびのびそだったで賞(310cm)」をいただきました。昨年は「みずやりがんばったで賞」を受賞しています。

“ひまわりの種”は万田発酵(広島県)から提供され、成長した丈を競います。力を合わせてジャンボひまわりを育て、子どもたちと命を育てることの大切さを学びます。今年も全国の小学校から幼稚園、保育園まで1,320施設が参加されました。

~認定こども園 正雀愛育園~

待ち望んだ砂場が完成

くるみ愛育園に砂場のあるかわいい園庭ができました。絵本図書館「絵本のえんがわ」の前の平地を整備したものです。

子どもたちや保育スタッフが待ち望んでいた砂場は、大きな丸太で囲み、その上に小さな橋も架けられています。元気よく外で遊ぶ楽しみが増えました。

~くるみ愛育園~



保育男女混合チーム、見事3位に 施設職員バレーボール大会



第41回施設職員バレーボール大会(7月23日、大阪民間共済会主催)が大阪府立体育館で行なわれ、成光苑(保育部門)の男女混合選抜メンバーが出場、見事3位入賞を果たしました。

全20チームが参加、成光苑チームは予選リーグを順当に突破、勢いそのままに決勝トーナメントでも勝ち上がりました。目標は悲願の優勝、次回は一層頑張ります。

【法人理念】

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

【サービス目標】

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

【老人施設経営方針】

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する

【愛育園経営方針】

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2016年10月
【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元開放のお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

巻頭言



予測できない事態にも対応、
創意工夫を発揮し地域福祉の拠点になろう

理事長 高岡 國士

日頃より当法人の事業運営にあたり、各方面から多大のご協力を頂いていることに厚く御礼申し上げます。

日本は今、赤字国債の発行が増加する一方で、すでに二〇〇兆円を超えています。一九九〇年代のバブル崩壊後の景気対策や高齢化による社会保障費の増大などにより政策経費が大きく膨らんだためです。プライマリーバランスの改善は財政健全化に向けた第一歩といわれていますが、難航しているのが現状です。

求められる子育てしやすい環境の充実

平成二十四年に発足した安倍内閣の経済活動によつて様々な改革が進められていますが、福祉を取り巻く環境は厳しい。福祉の問題を解決してきた地域連帯による相互扶助機能や家族機能が低下、これに代わるものとして二つの機能をあわせ持つものをどのように作り上げるかが大きな課題です。また、過疎化の進行や限界集落の増加に加え、地方分権化が進むとともに市町村格差が明確となり、これまでの福祉の縦割りが見直されることとなりました。今後は経済の再建だけでなく、人口問題の解決や地域福祉の充実、福祉の効率化、教育費無償化などをはじめとする子育てしやすい環境の充実が求められると思われれます。

総合的な相談機能を継続強化

現在、アベノミクスが掲げる「新三本の矢」の推進と「億総活躍社会」が意味する全員参加型の社会の実現に向け、社会福祉法人の果たす役割は大きく、成光苑としても育児・介護と仕事の両立支援の強化を図るため、待機児童の解消をはじめとする体制整備を進めています。特に、地域のセーフティネットの構築を主導的に進めることが期待されているだけに、地域の民生委員や自治会を対象にアンケート調査や専属のスタッフの配置なども含めた福祉の総合的な受付窓口としての相談機能の強化を継続して進めてまいります。

改革が進む中で、われわれの今後の経営に大きな影響を与えると思われる社会福祉法人制度改革についても、今年六月、施行のための留意事項や定款例などが明示されました。二十九年四月からの本格施行に向け、この九月末には会計監査人の設置基準などを含む政省令案が示され、十一月頃には最終案が公表される予定となっています。

日本の社会福祉の向上に大きな役割を果たしてきた社会福祉法人の抜本的な改革となつたこのたびの改正では、前号でも述べたとおり、①法人のガバナンスの見直し②経営の透明化③財務規律の強化④地域における公益的な取り組みを実施する責務

—の大きな四本柱が掲げられていますが、社会福祉法人間での種別・規模による財政格差が非常に大きいなど課題も明らかになっています。改正法における規制により行政指導が必要以上に大きくなり、法人の主体性が失われかねないとの声もあがっています。

さらなる地域密着活動に注力

そういう状況の中で成光苑としてはまず、社会福祉法人改革に対応すべく様々な体制整備を進めていかなければなりません。先にも述べましたとおり、特に注力すべきことは地域にあるニーズに対し、地域に密着した活動を推進することです。制度の狭間にある福祉ニーズを把握、それに対応するだけでなく、予測できない事態への対応も含め、地域との交流や連携を強化し信頼関係の構築を進め、地域福祉の拠点となることができるよう、創意工夫を発揮する活動を展開していきたいと考えています。

いよいよ社会福祉法人の大きな転換期を目前にし、これまで以上にスタッフが丸となり、地域の一員として様々な活動を展開、地域に愛される施設づくりの実現に努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

「地域の相談窓口」続々実践へ

高齢者施設は介護の「相談窓口」たれ!—成光苑が施設所在地の住民のみならずを対象に進めている介護保険相談や運動指導などが続々と実践されています。文字通り地域密着型サービスの一環ですが、そのいくつかを紹介しましょう。

ストレッチや困りごと相談も



ライフ・ステージ 舞夢

舞鶴市の介護予防事業の一つ、高齢者のみなさんの自主的な体操を促す団体へ運動指導員を派遣する事業(愛称、サロンdeすっとれっち)があり、月2回程度(1時間)体操や脳トレーニングなどを行っています。

加佐地域包括支援センターのある加佐地区では14ヶ所の公民館で、どこも予防や地域の見守りを支援する活動が実施されていますが、舞夢のスタッフも会場の公民館に運動指導員として出向き、体力測定などを行います。日常の軽い運動は筋力やバランス能力を改善し転倒予防にもつながります。その理解を深めるため、個々にノートに数値を記載し渡しています。また、介護を含む困りごと相談にも応じ、地域住民との顔の見える関係づくりに努めています。

介護保険説明会を実施

吹田竜ヶ池ホーム

6月25(土)、26(日)の両日、介護保険説明会を開き、一般にはわかりにくい介護保険の法改正について説明しました。

内容は「介護保険負担限度額認定証の利用者負担段階の判定基準の改正」について。「同認定証」は低所得層の施設利用が困難とならないよう食費や部屋代などの負担を軽減する制度。所得に応じ負担限度額を超える基準費用額との差額は介護保険から給付されます。

今回の判定基準の改正では利用者負担段階の判定に利用する年金収入額に、新たに障害年金・遺族年金などの非課税年金収入も合算されることになったものです。改正内容を一度に理解してもらうには難しい内容ですが、今後ご利用者やご家族の視点に立って対応に努めたいと思っています。

「竹の内介護保険相談所」開設

高槻けやきの郷

今年8月から近隣の竹の内町内の空き家を利用し「介護保険相談所」を開設しました。より地域に根差した「かかりつけ施設」として役割を果たすのがねらいです。

同相談所は住宅街にある一軒家で、四季の移ろいを感じながら穏やかに生活できる郊外にあります。現在、毎週土曜日の午前9時半～11時半)の2時間、スタッフが介護に関する様々な相談に応じています。

「けやきの郷はちょっと遠いね」という地域の方からのご意見を耳にしたのが同相談所の開設のきっかけ。設置場所を求めていたところ、日ごろ関わりのある地域の方が「所有しているうちの家(空き家)を使いますか」とありがたい申し出があり、お借りできました。

不審者には一人でも対応せず迅速に

サンヒルズ紫豊館



サンヒルズ紫豊館は9月23日、夜間避難訓練を行いました。例年通り福知山消防署員立ち合いで火災時のご利用者の避難訓練のあと、福知山警察署生活安全課の署員を招き「施設での防犯」について講義。神奈川県内の障がい者施設(他法人)で特異な事件が起きただけに参加スタッフも真剣そのもの。「不審者の行動や返答は異常であり怪しいと思ったらまず声をかける」「不審者に早く気づき、早く他のスタッフや利用者に異変を知らせる」「不審者には一人でも対応しない。間違ってもよいので怪しいと思ったら110番通報を」など心強いアドバイス。不審者を近づけない、さすまたを使った実演があり、施設では椅子や食事運搬カートなどが有効に使えるということ。有意義な避難・防犯訓練ができました。

警察署員からアドバイス
防犯・夜間避難訓練

災害に備え、備蓄倉庫を設置
高齢者用品20人、3日分

せっつ桜苑では災害に備えた備蓄倉庫を設置(7月19日)しました。昨年末、摂津市と成光苑との間で「災害時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を締結したことを受けたもので、設置場所は桜苑4階の一角。高齢者用の紙おむつやトイレ用品、折り畳みベッド、寝具、毛布など約20人・3日分を近く収納予定。

福祉避難所は災害やその恐れがある場合、通常の避難所(指定された小中学校など)で生活が困難となった高齢者や障がい者の方の支援を行うため開設される避難所のことです。近年の台風や地震などによる甚大な自然災害に対応、しっかり受け入れができる体制を整えることにしています。



福祉避難所の役割果たす

高槻けやきの郷の夏祭り



高槻けやきの郷では恒例となつた夏祭り(7月30日)を開催。熱帯夜の中、地域のみなさんや学生さんを含むボランティアにも参加してもらい大盛況でした。地域で活動されている方が「淀川三十石船舟歌」やダンス、プラスバンド演奏などを披露されました。スタッフによる「ソーラン節」では、今年スタッフの子どももメンバーに加わり、会場から「可愛くてよかつたね」といった声も寄せられました。

ソーラン節も披露し大盛況

保育スタッフが和太鼓初披露、ふれあい遊びも

東生野保育所

東生野保育所では9月2日、子どもたちと在所児の祖父母を招き「敬老の日集い」を開き、保育スタッフがこの日のために練習してきた和太鼓演奏を初披露しオープニングを飾りました。

和太鼓演奏は保育スタッフの緊張のうちに始まりましたが、所内に響き渡る力強い太鼓の音に子どもたちや祖父母も拍手喝采。その後、子どもたちが歌を合唱し、祖父母と一緒にダンスやふれあい遊びを楽しみました。

いつまでもお健やかに!

17名(傘寿以上)のご利用者にお祝い品

サンヒルズ紫豊館

サンヒルズ紫豊館は9月11日、敬老式典と祝賀会を行い、式典では、節目(傘寿以上)を迎えられた17名のご利用者に対し、内閣総理大臣はじめ京都府知事、福知山市長からお祝いの品が贈られました。また、施設の最高齢(103歳)のご利用者には施設からお祝いの品を贈呈しました。

祝賀会では、調理スタッフがこの日のために腕を振るった季節感あふれる特別な食事を楽しんでもらいました。余興もあり、地元高校生の和太鼓、ボランティアによるギターとハーモニカ演奏を披露、スタッフの合唱で祝賀会を盛り上げました。



敬老の日

手作り冊子「楽しく食べよう離乳食」をお母さんに

第二愛育園



第二愛育園では月1回、テーマを決め妊婦・0歳の親子を対象に「すこやかサロン」を行っています。栄養士の離乳食講習・給食試食会、保健師の健康講座、歯科医の出前講座、保育スタッフの手遊び・絵本・ふれあい遊びなど。

これまでのテーマでお母さんが最も関心を持たれたのが「離乳食」。そこで「楽しく食べよう離乳食」という手作りの冊子を出しました。離乳食開始時のプログラム、5ヶ月からの離乳食の進め方、5ヶ月～18ヶ月の赤ちゃんが食べられるものの一覧表(第二愛育園を基準とする)、出汁の取り方、離乳食のレシピなど内容は盛りだくさん。

お母さんからは「離乳食の全てが集約されていて不安が解消されます!」とうれしい声が聞かれました。

妊婦・0歳の親子対象に「すこやかサロン」

ゆるキャラ “すいたん”と大はしゃぎ

きりん夜間愛育園

きりん夜間愛育園に7月20日、吹田市広報番組「お元気ですか!市民のみなさん」(CTV)の取材で、吹田市のマスコットキャラクター“すいたん”が遊びに訪れてくれました。

“すいたん”は吹田市の伝統野菜「吹田くわい」をモチーフにしたゆるキャラです。園庭で一緒に「すいたんダンス」を踊ることになりましたが、子どもたちはダンスそっちのけで“すいたん”に興味津々。握手したり、頭を撫でてもらったりと大はしゃぎ。最後にようやく記念の集合写真を撮って楽しいひとときを過ごしました。



交流

お地藏様に手を合わせた地藏盆

千里愛育園

8月27日の地域の地藏盆(千里丘3丁目防災広場)に千里愛育園の約100名の園児が参加、保護者や家族と一緒に恒例のビンゴゲームや夜店などで楽しみ、盆踊り大会では地域の方に交じって太鼓のリズムに合わせて元気一杯踊りました。

お地藏様は普段は当園正門の前に祀られていますが、地藏盆には広場までお移りいただきます。千里丘愛育園が建設される前、現在地の地中から発見されたのが由来で「こどもの守り神」として祀られるようになったそうです。子どもたちが小さな手を合わせ真剣に拝む姿に、お地藏様もいつもより優しく微笑んでいるよう見えました。



「浜辺の歌」など5歳児が3曲合唱

認定こども園 一津屋愛育園



「第17回南摂津フドーコンサート」(7月23日、アトリウム南摂津)に認定こども園 一津屋愛育園の5歳児が出演し「浜辺の歌」「君の声」「ひよこりひょうたん島」3曲の合唱を披露しました。

子どもたちはやや緊張気味ながら、いつも通りの元気な歌声を多くの方に聴いてもらい、大きな拍手に充実感と笑顔いっぱい。ほかに音楽関係団体からギターアンサンブル、吹奏楽、大正琴なども演奏され、子どもたちも楽しいひとときを過ごしました。

地域の秋祭りに参加し “だんじり”を曳く

くろみ愛育園

くろみ愛育園では地域の秋祭り(8月1日)に参加し“だんじり”を曳きました。前日から部屋にハッピーを吊るし、子どもたちも気分十分。「よいやさーの!」と大きな声を出し“だんじりごっこ”、園の台に上がって手ぶりのりよく踊る光景も。

当日、ハッピーを羽織り「かっこい!」。だんじりが園の近くまで来ると「きたー!!」と目を輝かせて大騒ぎ。みんなで綱を持ち“かわいい小若衆”が園周辺を練り歩きました。



「大阪しあわせネットワーク」に参画 成光苑の支援体制づくり進む



「大阪しあわせネットワーク」は現在、大阪府内の社会福祉法人が施設種別の特性や強みを活かした活動へと展開し、全国的にも拡がりつつありますが、成光苑では様々な側面から支援できる体制づくりを進めています。

同ネットワークは大阪府社会福祉協議会老人施設部会の社会貢献事業「生活困窮者レスキュー事業」として始まりました。公的制度の狭間で、制度にはすぐに結びつかない生活困窮などの方に対し、地域貢献として府内の社会福祉施設にコミュニティソーシャルワーカー(以下CSW)やスマイルサポーターを配置、地域での総合生活相談、経済的援助も含め迅速に支援を行うものです。

成光苑では大阪全施設にCSW及びスマイルサポーターを配置。保育施設でも社会貢献基金(特別部会費)の拠出に参画するなど支援体制を進めています。今後も社会福祉法人の使命である「地域への貢献」を積極的に提案活動していく方針です。

社福法人改革へさらなる挑戦 第29回 5法人合同研修会 ホスト役 成光苑が発表

保育部門

「漢字あそび」に意欲的に取り組む子どもの姿を映像で紹介

保育部門は、愛育園7カ園で取り組んでいる「漢字あそび」をテーマに、認定こども園一津屋愛育園の原田文子園長が同部門代表として実践報告を行いました。

遊びを通して漢字教育を保育活動に取り入れてから4年目。漢字あそびの意義や現在の子ども様子、今後の課題など映像を交え紹介。映像では、子どもたちが真剣かつ意欲的な表情で、かけ算、俳句などに取り組んでいる姿が映し出され、臨場感のある報告となりました。

今回の発表から得た反省点や課題をもとに、さらに充実した漢字あそびの指導が行えるようスタッフ全員、研鑽に努めたいと思っています。



高齢者部門

「地域密着型サービス」「中間的就労」について

第29回5法人合同研修会(こうほうえん・クムレ・大阪自強館・青山里会・成光苑)が成光苑を担当ホスト法人として6月16、17の両日、大阪ガーデンパレスと新大阪ワシントンホテルプラザで開かれ、各法人の幹部職を含む約100名が参加、研修会と情報交換会が行われました。

高齢者部門では、成光苑の最近の福祉の取り組みについて、「地域密着型サービスの実践報告」、「中間的就労の取り組み」をテーマに発表。また、外部から講師を招き「高齢者の発達を支援する環境づくり」「介護分野での外国人労働のあり方」についてそれぞれ専門的な見地から講演があり、質疑を交え理解を深めました。

今後も引き続き社会福祉法人改革への挑戦を目的に、お互いに支え合い、さらなる実践をめざす誓いを新たにしました。

海外福祉事情の調査・研修に参加して



公益財団法人社会福祉振興・試験センターが9月4日から13日間の日程で実施した「平成28年度民間社会福祉施設職員等海外研修調査」に参加しました。訪問国はデンマークとスウェーデン両国で、派遣されたのは各地の民間社会福祉施設職員(高齢者福祉関係)12名。デンマーク、スウェーデンのそれぞれの国では、行政機関をはじめ高齢者介護施設、ホスピス、介護補助器具センターなど12施設を公式訪問し、担当者から福祉情勢や運営状況などについて説明を受け、施設見学や意見交換を行いました。

“ぶれない福祉観”を実感

「住み替えを促す「高齢者住宅」の整備体制を構築」デンマークでは、「介護施設」としてではなく、「高齢者住宅」の整備によって介護が行き届く体制を構築されています。

高齢者の身体的な衰えや家族数、ライフスタイルの変化などを考慮し、1988年以降、事故の危険や孤独、虚弱化を進める可能性のある「不適切な住宅」から、できる限り長く住み続ける場所として早めの住み替えを奨励する方向性が定められました。自分の家で住み続けるためには、高齢期に見合った家に住み替えるのがよいというメッセージです。

デンマークの福祉政策は「高齢者福祉の三原則」(①生活の継続性 ②自己決定の原則 ③残存能力の活用)と「住まいとケアの分離」をコンセプトとしており、徹底した国家戦略がとも印象的でした。

行政区の特性、地域性に適した医療・保健・福祉を提供 スウェーデンの行政組織は、290のコミュニティ(市町村)と21のランスタイング(府県)から成り立っています。コミュニティは、高齢者



両国の視察研修を通して、福祉の核としてぶれない福祉観を感じることができた貴重な経験でした。国民性や制度の違いはあるにせよ、今回の経験や五感で感じたことを今後に生かしたいと思えます。(岩戸ホーム 藤田 元)



「小規模保育園ならではの家庭的保育を大切に」

くるみ小規模保育園に6月1日付で園長として就任いたしました。

慣れない園長職に戸惑いもありますが、子どもたちから元氣なパワーをもらい、温かい家庭のような保育をしていきたいと思っております。

地域に愛される保育園を目指し、スタッフと共に頑張りますので、皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

園長 本田 かや



研修

新人・乳児クラスの保育スタッフ対象にリズム研修

新人・乳児クラスの保育スタッフを対象にしたリズム研修(5月14日)がきりん夜間愛育園ランチルームで行なわれました。

講師は春本 繁子園長(第二愛育園)。リズムの基本となる動き、乳児の動きをわかりやすく丁寧に指導されました。参加した保育スタッフからは「リズムの動きが理解できました」「リズムの楽しさを知り、自園に戻ったら子どもたちと一緒にやってみよう」などの感想が寄せられました。

研修後では保育スタッフの表情も真剣で、新たな発見にチャレンジする意気込みがうかがえました。

音楽指導

音で楽しませてあげる音楽を!

愛育園では大塚 七三生氏(日本幼児音楽研究会 会長)を講師に招いて音楽指導研修(6月9日、きりん夜間愛育園)を行い、各園から42名の保育スタッフが参加しました。

大塚氏では実際に保育で使用使用する楽器を用いたリズム打ち、楽器の持ち方・鳴らし方なども指導。歌唱は子どもの年齢に合った音域に配慮し、言葉の意味を伝えながら指導することも重要と指摘し「音で楽しませてあげることが音楽」と捉えて指導することが大切、と強調されました。研修で学んだことを理解し、子どもたちが楽しめる音楽指導を目指したいと思います。

体育指導

信頼関係が目標達成につながる

成光苑法人全体研修の一環として、保育部門の体育指導研修(6月7日、第二愛育園)が行われました。担当したのは認定こども園 一津屋愛育園です。

昨年に引き続き、講師に居関 達彦氏(エール株式会社)を招き、テーマは「年齢・発達に応じた運動遊びの理論と実践」。4~5年目の保育スタッフ40名が参加しました。

居関氏は、体育指導においても、保育者と子どもとの信頼関係があってこそ目標が達成できること、情緒を育むことの大切さなど、実際の指導方法だけでなく、心を育てることの重要性を強調されました。明日からの保育現場に生かせる研修内容でした。



保育施設

「心はどこに?生活の中に」子どもの発達を支援する環境づくり

「子どもの発達を支援する環境づくり」をテーマに4回の研修会。冒頭、「心はどこにあるのか?」と問われ、ほぼ全員の保育スタッフは「自分の中にある」と考えていました。しかし「外にある。生活の中にある」というのが城氏の見解です。「子どもにアプローチしても、その子どもが変化しない時は、その子に問題があるのではない。その子が生きている環境に働きかけることで変わることが出来る」と解説、発想を変えていくことにポイントがあると指摘。また、自尊心を育むには短所を長所に変え褒めることが大事と強調されました。

就職フェア

ライブ・ステージ 舞夢

ライブステージ 舞夢は、ハルビスOSAKAで開催された「今日から始まる 京で始める!」京都北部7市町村合同就職面接会(6月29日、京都北部地域連携都市圏形成推進協議会主催)に出展参加しました。

京都府の正規雇用求人募集している企業100社が出展し、来春大学などの卒業予定者、一般求職者、UIターン希望者約120人が来場。舞夢のスタッフは、舞夢オリジナルTシャツを着用、特に就活生(学生)に気軽にブースへ来てもらえよう工夫して臨みました。

また、舞鶴市商工観光センターで開かれた夏の就職フェア「ふるさとCOLLEGE MAIZURU」(8月9日、舞鶴商工会議所主催)には約50社の企業と共に出展参加しました。

ブースでは学生を含む多くのみなさんと面談することができました。

ブース担当(京都エリア)の若い介護スタッフのガンバリもありません。

福祉の仕事に誇りを持ち、使命感に説明、相手のペースに合わせ対応する真摯な態度は、ブース来訪者に強い印象を与えたと思われまふ。



今日から始まる 成光苑で始める!

来たれ就活生!

アピール!



人財確保プロジェクトに新たに現場スタッフも参加

高齢者部門

現場のナマの声伝え

施設見学につなぐ

高齢者部門では、主に新卒者の獲得を目的に人財確保プロジェクトチームのメンバーが中心となり採用活動を行っています。今年度から現場の介護スタッフも新たにメンバーに加わりました。

人材獲得のために何が必要か、他との差別化をいかに図るか、といった課題に現場サイドの声を参考にするため、知恵を絞り「成光苑の魅力」「介護の仕事の魅力」を求職者に訴えています。

定期開催のプロジェクト会議では、就活生(学生)や一般求職者の動向を注視しながら、京都・大阪エリア担当者が情報共有を図り個別重視の獲得戦略を練っています。

人材確保が厳しい中、各エリアで開催される福祉就職フェアでは、介護スタッフの現場の生の声や魅力を丁寧に伝えます。そのスタッフの声が施設見学などにつながるからです。「成光苑に来れば(就職)、私がいるから大丈夫!」と学生の心に響く言葉も聞かせるようになってきました。

チューターの存在、頼りになります!

~1、2年目介護スタッフに聞く~
《京都・大阪エリア》



成光苑(高齢者部門)では8月京都エリア、9月大阪エリアで、それぞれ主に1~2年目の介護スタッフ(13名)を対象に座談会形式でヒヤリングを行いました。人財確保プロジェクトの一環で、各スタッフが学生当時、自身の就職活動や成光苑の印象などを語ってもらう趣向です。

新卒者の獲得が非常に厳しい状況を踏まえ、採用担当者がより就活者(学生)目線に近いスタッフから、就職に対する考え方や当法人の採用活動(就職フェア、施設見学、実習生などの対応)の印象など、当法人との出会いから現在の仕事に対する思いまで直接聞きました。

1年目のスタッフは、夢や希望の一方で多くの不安を抱えています。意見の中で最も多かったのは、当法人の人材育成プログラムやチューター制度(専属の教育・指導係)があることで安心して働くことができ、特にチューターの存在を頼りにし、緊張感をもって頑張っていることがわかりました。

シフトの組み方や希望休日(有給休暇含む)などや理解が得られていない部分もあったようで、プロジェクトを通じ各施設に情報を発信することもできました。

短時間のヒヤリングでしたが、貴重な意見を聞くことができ実りある試みでした。成光苑では、人材確保体制と人材育成体制をセットで考えていることから、今後も連携強化に努めたいと思います。

「人材確保・定着・育成の取り組み」(第7分科会)に参加

近畿老人福祉施設協京都大会

ライブ・ステージ 舞夢

「2025年へ向けて 高齢者福祉・介護のあり方を考える」をメインテーマに、近畿老人福祉施設協議会京都大会(7月20、21日)がロームシアター京都とみやこめっせで開催され、ライブ・ステージ 舞夢は10分科会のうち、第7分科会「人材確保・定着・育成の取り組み」に参加、職場内の信頼関係の構築、ワークライフバランスの整備について学びました。大会では各法人・施設の実践報告や研究成果が発表されました。

~先輩からのメッセージ~

介護の基礎から学べる環境と雰囲気よさが決め手に 施設見学やボランティアにも積極的に参加しよう!

廣田 郁恵

岩戸ホーム
平成28年度入社

成光苑で働きたいと思う決め手になったのは、新人育成・チューター制度など介護の基礎から学べる環境が整っていること、それに就活中の見学でスタッフの対応と施設全体の雰囲気のよさが印象に残ったことでした。先輩のみなさんに支えられ、安心して働ける職場を実感。学ぶことが多いので、曖昧にせず先輩に聞く姿勢を大切にしています。

学生の皆さんには、夢や希望を「ここなら実現できる!」と感じるステージを見つけられるよう頑張ってください。ボランティアに積極的に参加することひとつの方法だと思います。

大坪 美千代

東生野保育所
平成28年度入社

園見学の際に、立腰や漢字あそびなど自分が知らなかった成光苑の取り組みにとっても関心を持ちました。子どもたちが難しい漢字を読んでいる姿を見て驚き、和太鼓に保育スタッフも真剣に取り組む姿、その一体感に感動を覚えました。「自分もこんな先輩と一緒に働きたい!」

実際の保育では「あの場面はこうすればよかった」と反省することもあります。頼りになる先輩や同期に支えられ、ポジティブに楽しく保育をしています。